

第5期（平成28－29年度）

みんなでまちづくり推進会議事業報告書

案

平成30年3月

第5期みんなでまちづくり推進会議委員

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 協議テーマ「若い世代の（行政）参加」	
(1) 「若い世代」について	2
(2) 協議経過	2
(3) 協議形式	2
(4) 協議結果	3
(5) 総括	8
3. 市民活動推進補助金の審査	
(1) 審査経過	9
(2) 採択事業	9
(3) 要綱・募集要項の改正	11
4. 参加と協働の実施状況の評価	
(1) 参加の実施状況	12
(2) 協働の実施状況	13
(3) 実施状況の評価	14
5. おわりに	
(1) 委員の感想	15
(2) 総括	
6. 会議開催経過	
7. 委員等名簿	

1. はじめに

境港市みんなでまちづくり推進会議は、平成19年に「境港市みんなでまちづくり条例」の実効性を確保するために、促進・参加・協働・支援の実施状況の評価や、協働事業の提案に関する審査などを行う機関として設置された。

第5期（平成28－29年度）においては、12人の委員により、市民活動推進補助金の審査、参加と協働の実施状況の評価、そして、島根大学法文学部准教授 毎熊 浩一氏をアドバイザーに迎え、「若い世代の（行政）参加」について、協議を行った。

とりわけ、協議テーマ「若い世代の（行政）参加」に関しては、実際に、若い世代を招き、なぜ若い世代が（行政）参加しないのか・関心が薄いのか、そして、どのようにしたら若い世代に参加してもらえるのかについて話し合った。ここで示された課題や方向性というものは記録としてまとめておく意義があると考え、本事業報告書として、第5期委員の他の事業実施内容と合わせて、とりまとめるものである。

なお、本事業報告書は、「協議テーマ「若い世代の（行政）参加」・「市民活動推進補助金の審査」・「参加と協働の実施状況の評価」という本推進会議で実施された事業の内容に、「おわりに」として、第5期委員全員からの感想・総括で構成している。

2. 協議テーマ「若い世代の（行政）参加」

第5期は「若い世代の（行政）参加」をテーマに協議した。「行政」がカッコ書きになっているのは、当初、行政参加に限定して協議を行っていたが、平成29年10月の会議より、アドバイザーの提案をもとに、テーマを行政に限らず、広く「参加」全般としたためである。

（1）「若い世代」について

地域やPTAといったコミュニティで実際に主として活動されている、もしくはそれが期待される20代～40代前後の年代を若い世代としている。

（2）協議経過

日時	内容	参加者
平成28年4月11日	ワールドカフェ方式による協議	委員、毎熊アドバイザー、島根大学生14名
平成28年11月10日	フリートーク	委員
平成29年5月9日	フリートーク	委員
平成29年8月8日	フリートーク	委員
平成29年10月31日	ワークショップ方式による協議	委員、毎熊アドバイザー
平成30年3月6日	ワールドカフェ方式による協議	委員、10代～40代の市民13名

（3）協議形式

- ・ワールドカフェ…カフェテーブルでゆったりした気分で話し合うことで、生き生きとした意見交換や新たな発想の誕生が期待できるという考え方に基づいた話し合いの手法。BGMをかけ、お茶・お菓子を飲食しながら、ゲストと委員が班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋を貼るという形式で協議を行った。
- ・フリートーク …前回協議の感想や今後の方針などを委員間で協議した。
- ・ワークショップ…班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋を貼るという形式で協議を行った。ワールドカフェと違い、ゲストは呼ばず、BGMなし、飲食もなし。

(4) 協議結果

○平成28年4月11日

毎熊アドバイザー監修のもと、島根大学生14名と共にワールドカフェを実施。以下のような意見が出た。

なぜ若い世代は行政参加しないのか ・関心が薄いのか	どうしたら若い世代が参加するのか
<p>(行政・政治へのイメージについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は堅いイメージがある。(複雑そう。面倒。情報がコロコロ変わる) ・行政に対する知識がない。選挙にも参加しづらい。 ・行政=就職先、投票=身近にわからない、というイメージがある。 ・意見が反映されない。政治家にいいイメージがない。 ・行政が遠い存在だと感じている。自分の生活とどう関わっているかわからない、身近に接する機会がない。 ・小難しい、法的な言葉が多いイメージがある。 <p>(情報発信について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が具体的にどのようなことをしているかわからない。 ・情報が大きなメディアから回ってこない。(情報発信不足) ・市報や議会報など紙ベースの発刊物があるが、紙媒体になじみが薄い。SNS等で発信してほしい。 ・決まりごとに対して、まあいいかと妥協する気持ちがある。 ・市報や町内会の案内などを手に取る機会がない。 ・行政関連の情報は探さないと見つけれない。 <p>(学校教育について)</p>	<p>(参加する機会の創出について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の意見を聞く場を設ける。 ・いろいろな世代の人が集まり、行政や政治などいろいろな話をする場を用意する。 ・祭りなど楽しいイベントがともにあり、参加することに楽しみを感じてもらえるようにしていく。 ・参加しやすい環境づくりに努める。 ・若者と市長や議員が触れ合う・語り合う機会を創る(難しいテーマでなく、平易なテーマなどで) <p>(学校教育での取組について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でワールドカフェのような方式で気楽に行政参加する場を設ける。 ・小・中学校の授業で行政や選挙のことを教える。 ・学校教育に新聞を読む時間や行政について学ぶ時間を設け、親しみを持ちやすい環境を作っていく。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の意見をもっとまともに取り扱ってほしい。 ・行政への意見をもっとフィードバックしてほしい。 ・若者が「自分が動く」という当事者意識を持つ。 ・開放的な風土づくりが必要。 ・分かりやすい議会にしていきたい。

- ・小・中・高と決め事に参加する機会を与えてもらえていないから。
- ・小・中・高の授業（現代社会など）と実際の社会や行政とのつながりや関連性が見えない。
- （その他）
- ・地域性が強く、地域外からの意見が受け入れられにくい。
- ・夫婦共働きが増加しているから。
- ・そもそも子どもや若い世代が少ない。関心が薄い。
- ・まちづくや地域づくりについて、若者がやる必要がわからない、年上（40代以上）がやるべき。「ふるさと」と思えるほどの思い入れがない。
- ・時間がない。（学生はアルバイトや遊び、20～30代は仕事と子育てに時間をとられる。）

- ・参加することが義務ならばする。（罰則を設けるなど）



ゲストが学生であったため、若い目線の意見が多く出た。「小・中・高と決め事に参加する機会を与えてもらえていない」という意見が示すように、学校教育での取組が重要と感じる会となった。

○平成29年10月31日

毎熊アドバイザー監修のもと、委員間でワークショップを実施。以下のような意見が出た。

「若者が政治に参加しない原因」	「参加を促す解決策」
政治に関心がない／分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で指導する ・ 学校で政治クラブを作る ・ 若者が楽しみに思えるような企画を作る ・ 行政がもっと近づく ・ 若者に人気な芸能人による政策討論番組を放送する ・ 学部誘致 ・ 若者限定の市長と語る会を開く ・ 小中から継続して参加できる機会を作り、重要性を理解してもらう ・ 立会人を広く募集する（謝礼をエサにする）
一人ではどうにもならない	
自分に関わらなくても問題がない	
面倒くさい	
大人が興味を持っていない	
家族で政治の話をしない	
周囲のことを考える気になれない／自分のことで精いっぱい／バイトが忙しい	
テレビ・ネット等で興味のあるニュースしか見ず、政治に関するニュースを見ない	
なじみがない	
地域の行事など全て親がしてしまい、子どもの出番がない	
不在者投票制度の周知不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不在者投票制度についての広報を充実させる ・ 移動投票所の開設／若者の集まる場所で投票所を開設
県外大学へ進学し、住所を移していない大学生は投票できない	
仕事の多様化で土日祝に休みがない	
政治家のイメージが悪い／政治不信／政治家に関わりたくない	政治家との交流の機会を設ける／飲み会を開催する

学生との協議・委員間での協議を経て、地域の活動を担う「働き盛り」の年代からの意見も聞きたいという反応もあり、次回のワールドカフェへと進展していった。

○平成30年3月6日

委員がそれぞれ20代～40代の市民の方を連れてきて、ワールドカフェを実施した。前回との違いを出すため、「みなさん（私たち）が参加する理由」も追加し、「参加を促す改善策」へのヒントとしたところ、以下のような意見が出た。

「みなさん（私たち）が参加する理由」	「若い世代が参加しない理由」
<ul style="list-style-type: none"> ・親に言われたから／声をかけてもら うから／嫌とは言えない人に誘われ たから ・知り合い・友達を増やしたい／知ら ない人に会ってみたい／面白い人に 出会える ・人と人との繋がりを大切にしたい ・仕事をやめて時間がある ・地域の役に立ちたい／境港や地域へ の愛 ・ボランティアが好き ・人の笑顔が見たい ・自分のためになる／自分の成長に繋 がる ・世間体を気にして（やっていないと は言いづらい…） ・自分の考えや経験を伝えられる ・人の意見を聞いてみたい ・政治・投票は自分の考えを反映して くれそうな人がいたら応援・投票す る ・自分の活動で何かが変わるとやりが いを感じる ・自分の熱意と一致するならボランテ ィアでも参加する ・PTA行事が子どものためになるなら 参加する ・地方（田舎）だからこそやる（一人 一人の力が重要） ・頑張っている人に協力したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさい ・やりたくてもどう参加したら良いか 分からない ・時間的な余裕がない／自分の趣味・ 仕事・子育てに忙しい／ ・人見知り／恥ずかしい／地元だと恥 ずかしい／参加しても溶け込めない ・繋がりやツテがない ・情報がない／行事自体の存在を知ら ない ・自分が求められていると思わない ・自分に出来る自信のないことには参 加しないようにしている／役不足 ・時間を割いても、面白みやうま味が ない ・世代に格差があってなかなか入り込 めない ・若い世代の意見をよく聞かない ・誘い方が下手／直接誘われていない ・習慣がない ・個が中心で他人に関心がない／個人 では参加しづらい ・参加によるメリットを考えてしまう ため（特に即効性のあるメリット） ／メリットが示されていない ・自分がいてもいなくても影響がない ・20代～40代だけの集まりがない ・行事が慣例で嫌々参加しているよう な人の集まりになっている ・行政に自分の考えが反映されたこと がない ・よそから引っ越してきて受け入れら れていないと感じて参加していない ・高齢者と若者の考えにギャップがで きている

「参加を促す改善策とは？」

- ・インパクトのある広報／大きなPR（市報で一面使う・テレビCM）／回覧板以外の方法／SNSの活用
- ・行事の企画から若者にさせる
- ・子どもたちが参加できる活動を増やす（親も来る）／親と子どもの農業体験や料理体験
- ・お得感を与える／献血のような参加賞／食事会／日当あり
- ・「あなたが必要なんだ！」と伝える
- ・責任のある役を持たせてあげる
- ・若い世代の意見を優先して聞くようにする／何がしたいかアンケートをとる／自治会に入らない理由を話す（全てなくしたらどうなる？）
- ・子どもの頃からの教育／子どもの頃から行事に参加させる／個人主義ではなく、みんなで協力することの大切さを教える
- ・掴んだら離さない！
- ・横の繋がりを強くする
- ・年代を限定した選挙・行事・イベント
- ・参加のハードルを下げる（2回、3回と参加すると役を任せようというイメージを払拭する）
- ・その世代のリーダーを巻き込む
- ・会の目的をはっきりさせる／メリットをしっかりと伝える／どんな人がいて何をしているかを発信する
- ・ボランティアや選挙にポイントをつける
- ・義務に非ず、有志であるという「前提」で参加してもらう
- ・言葉づかいに気をつける
- ・慣例ばかりでなく、新しい取り組みで興味をひく／参加した楽しさを感じられる会にする
- ・世代を超えた交流（子どもから高齢者、地域ぐるみで）を普段からしておく
- ・選挙は投票しないと罰金を科す（オーストラリアは3万円）
- ・地域、学校、行政の連携を強くする
- ・何かの決め事を若者にさせる
- ・それぞれの地域に合った参加度があるはず。境港市の目指す形は？



今回は、参加者アンケートも実施し、「幅広い年代の意見が聞けて良かった」「前向きな気持ちになれた」という好意的な意見が見られた。一方で、「年配の方との価値観にギャップがある」という意見もあり、各コミュニティの実態をそのままテーブルが表していたのだとも感じた。

(5) 総括

島根大学生・市内の若い世代との交流を経て、多くの意見を聞くことができた。現状として、若い世代は仕事や子育てに忙しく、その時間を割いてまで、参加するメリットがないと思っている人も多く、また、性格的な部分において、年配者が役割を持つことにやりがいを感じることにに対し、若い世代は(個人差はあるにせよ)、役割は負いたくない、という考えを持つ人も多いようである。

よって、現状打破するためには、短期的には、それぞれの会の意義や参加することのメリットをしっかりと提示し、場合によっては、新たに即効性のあるメリット(食事を提供する、参加賞を設ける等)を企画する必要がある。また、気軽に参加できるような雰囲気づくりや、それを伝えるためのSNSを活用した情報発信も不可欠であると思われる。長期的には、学校教育における段階から、参加する機会を創出し、自分たちが決めたことで、何かが変わっていくという経験を積ませていくことが必要だと思われる。

このテーマでの協議は今期で終了するが、次期に向けて、まず、委員の構成について、若い世代や女性を増やし、委員の新陳代謝を提案したい。ワールドカフェでもあったように、「世代を超えた交流」「参加した楽しさや意義を感じられる会にする(若者目線の企画を行う)」といった参加を促すための改善策を本推進会議から実践していきたい。

3. 市民活動推進補助金の審査

市民活動推進補助金の交付にあたっては、本推進会議内で審査を行い、事業の採択・不採択を決定している。

(1) 審査経過

平成28年度・平成29年度共に、3回審査会を実施し、計6回の審査会を開催し、30件の審査を実施した。

回数（日時）	審査件数	採択件数	ヒアリング審査員
平成28年度 第1回 （平成28年5月6日）	12件	一般事業4件、 緑化事業8件	梶川、松本、渡部
平成28年度 第2回 （平成28年8月5日）	3件	一般事業1件 緑化事業1件 （取下げ1件）	植田、門脇紀文、 門脇京子
平成28年度 第3回 （平成28年11月10日）	1件	一般事業1件	遠藤、門脇紀文、 徳尾
平成29年度 第1回 （平成29年5月9日）	11件	新規設立事業1件、 緑化事業10件	石橋、梶川、佐古
平成29年度 第2回 （平成29年8月8日）	2件	一般事業2件	門脇京子、松本、 渡部
平成29年度 第3回 （平成29年10月31日）	1件	一般事業1件	佐古、徳尾、松本
合計	30件	一般事業9件、 緑化事業19件、 新規設立事業1件	

（敬称略、50音順）

(2) 採択事業

平成28年度は、審査16件、うち採択15件、取下げ1件、平成29年度は、審査14件、うち採択14件であった。採択した団体・事業は以下のとおりである。なお、各事業の実施内容や交付金額は「平成29年度境港市市民活動推進補助金実績報告」にまとめる。

・平成28年度

団体名	事業名	事業の区分
青少年育成境港市民会議 余子地区部会	こども農業塾Ⅱ	一般事業
平和のための戦争展実行委員会	境港市平和のための戦争展	一般事業
青少年育成境港市民会議 境地区部会	第4回落書き大会	一般事業
境港歴史楽会	門脇重綾遺稿歌集「蝸園集」 翻刻版の発刊	一般事業
一般社団法人境港青年会議所	LOVE IN THE BEACH	一般事業
カニカニマラソン実行委員会	第2回境港カニカニマラソン	一般事業
鳥取県立境港総合技術高等学校 ボランティア同好会	花いっぱいふれあい事業	緑化事業
京和自治会	京和会花いっぱい運動	緑化事業
竹内マツ植樹隊	竹内西緑地へのマツ苗植栽 及び管理	緑化事業
渡小学校PTA	花いっぱい運動	緑化事業
境港市立外江小学校PTA	しらおの森は花いっぱい	緑化事業
境港市立境小学校PTA	花いっぱいの境小	緑化事業
上道小学校PTA	花いっぱいふれ合い運動	緑化事業
境港市立余子小学校保護者と 先生の会	はないっぱい運動	緑化事業
誠道小学校PTA	花いっぱい運動	緑化事業

※新規設立事業は該当なし

・平成29年度

団体名	事業名	事業の区分
さかいみなと中野港漁村市 実行委員会事務局	沿岸の魚を美味しく食べる実 演&試食	新規設立事業
平和のための戦争展境港市 実行委員会	第4回平和のための戦争展	一般事業
カニカニマラソン実行委員会	第3回カニカニマラソン大会	一般事業

境港歴史研究会	「お台場ものがたり」出版事業	一般事業
京和自治会	京和会花いっぱい運動	緑化事業
鳥取県立境港総合技術高等学校ボランティア同好会	花いっぱいふれあい事業	緑化事業
誠道小学校 PTA	花いっぱい活動	緑化事業
境港市立渡小学校 PTA	花いっぱい運動	緑化事業
竹内マツ植樹隊	竹内西緑地へのマツ苗植栽及び管理	緑化事業
境港市立外江小学校 PTA	しらおの森は花いっぱい	緑化事業
中浜小学校保護者と先生の会	中浜小学校校内緑化推進事業	緑化事業
境港市立境小学校 PTA	花いっぱいの境小	緑化事業
上道小学校 PTA	花いっぱいふれ合い運動	緑化事業
境港市立余子小学校保護者と先生の会	はないっぱい運動	緑化事業

(3) 要綱と募集要項の改正

市民活動団体からの要望や委員からの提案により、市民活動の活性化を図るために、境港市市民活動推進補助金交付要綱並びに、境港市市民活動推進補助金募集要項を改正した。

・主な改正点

1. 概算払の上限金額を4割から8割に拡充
…団体の負担を軽減し、より充実した市民活動の推進を図るため
2. 補助事業で作成する印刷物には補助金事業であることを明示
…市民活動推進補助金のPRを図るため
3. 募集回数の増加
…年度初め(4月～5月初旬)の事業に対応するため

4. 参加と協働の実施状況の評価

当市における市民の参加と協働について、とりまとめ、評価した。

(1) 参加の実施状況

○審議会の公開について

・平成27年度

審議会・委員会数	40 件	うち非公開又は1部非公開2件
開催回数	156 回	うち公民館運営審議会84回 開催無の会議数15件
傍聴者数	1 人	傍聴のあった会議数1件

・平成28年度

審議会・委員会数	44 件	うち非公開又は1部非公開2件
開催回数	162 回	うち公民館運営審議会84回 開催無の会議数17件
傍聴者数	22 人	傍聴のあった会議数6件

○委員の公募について

・平成27年度

会議・委員会名	募集時期	募集数	決定委員数
国民健康保険運営協議会委員	H27.4	4名	0名
みんなでまちづくり推進会議委員	H28.1	若干名	1名

・平成28年度

会議・委員会名	募集時期	募集数	決定委員数
総合計画審議会委員	H28.4	若干名	0名
男女共同参画推進審議会委員	H28.10	若干名	3名

○パブリックコメントについて

・平成27年度

計画等の名称	募集時期	意見
農業委員会の目標と活動計画について	H27.4	0件
「境港市総合戦略」骨子(案)について	H27.8	2件
美保飛行場周辺まちづくり基本計画(案)について	H28.2	8件
境港市公共施設等総合管理計画(案)について	H28.3	0件

・平成28年度

計画等の名称	募集時期	意見
農業委員会の目標と活動計画について	H28.4	0件
境港市まちづくり総合プラン(案)について	H28.10	1件
境港市民交流センター(仮称)基本設計(案)について	H29.3	9件

○政策提案制度

- ・平成27年度 市民の声提案箱 提案数40件
- ・平成28年度 市民の声提案箱 提案数50件

○出前座談会

- ・平成27・28年度 市長と語る会 7地区・各公民館で実施

(2) 協働の実施状況

《課別》

課名	件数	
	H27	H28
地域振興課	8件	7件
自治防災課	2件	2件
子育て支援課	3件	6件
健康推進課	5件	6件
福祉課	17件	17件
長寿社会課	9件	9件
環境衛生課	4件	4件
通商観光課	3件	3件
商工農政課	2件	2件
水産課	1件	1件
管理課	1件	1件
都市整備課	5件	6件
教育総務課	3件	2件
学校教育課	0件	0件
生涯学習課	47件	42件
合計	110件	108件

《協働の形態》

形態	件数	
	H27	H28
事業委託	13件	13件
共催・後援	37件	33件
補助・助成	25件	26件
事業協力	29件	27件
情報交換・情報提供	2件	2件
その他	4件	7件
合計	110件	108件

《協働の形態について》

事業委託	市民活動団体（NPO、ボランティア団体、自治会など）が持つ特性や専門性を活かして、行政が直接行うよりも効果的、効率的なサービス提供ができる場合に委託すること。
共催・後援	「共催」は、市民活動団体と行政と一緒に企画、資金面で共同し、事業（イベント等）を実施すること、「後援」は名義等の使用により、側面的な支援を行うこと。
補助・助成	暮らしやすいまちの実現に寄与することを目的とした公共的、公益性のある市民活動に対し、その自主性を尊重しつつ、財政支援を行うもの。
事業協力	市民活動団体と行政がお互い、明確な役割分担のもとに、一定期間継続的に協力しあうもの。
情報交換・情報提供	相互の理解と役割分担に向けた話し合いのために行う情報交換、行政情報の積極的な提供を行うもの。
その他	公共施設を利用した協働事業の推進など、上記以外のもの。（施設利用料の減免措置、市有地の無償貸付など）

（３）実施状況の評価

市と地域の協働体制はかなり充実してきたように思う。しかしながら、一つ一つの事業に着眼すると、それが一部の層のみで完結しているものも多い。今後の在り方として、一部のみでなく、広く協働の輪を広げていくことが大切である。

5. おわりに

(1) 委員の感想

・石橋 文夫

ワールドカフェのように世代や性別の異なる色々な人の意見を聞いて、今後もまちづくりについて考えていきたいです。

・植田 建造

若い世代の参加は、ワークショップ、市議会、まちづくり若者委員会などあり、色々な意見が出されています。それを踏まえ、世代間交流ができる会議も必要です。

・遠藤 恵子

ワールドカフェに際して、30代の息子夫婦と初めて本気で境港の将来について、話し合ってみました。選挙のときは親子で話し合ってみるなど、まずはそれぞれの家庭から参加について考えてみてはどうでしょうか。

・梶川 恵美子

委員一人一人の意見は自分とは反対意見もあり、自身の振り返りをする機会となり、大変勉強になりました。参加に関しては、みなさんが友人たちに語りかけ、輪が広がっていくことを願います。

・門脇 京子

ワールドカフェでは、委員だけでは出ない意見もありました。「参加を促す改善策」をどのように実現するかが問題です。ワールドカフェを継続し、広げていくことも実現の一步です。

・門脇 紀文

行政の考え方が理解されにくいと思います。地道な活動を通して、行政参加を促す方策を見出していかなければなりません。

・佐古 廣

若年層の投票率が低いのは問題ですが、先の市議選が無投票に終わったことは深刻な社会問題です。50歳以下の若い世代が市政を活性化していくことが求められます。

・佐名木 歩実

・土田 良和

市民が少しでも、行政参加できる場（チャンス）を与えることも必要ではと思いますので、この会議のような場はこれからも継続して行ってください。

・徳尾 勝

日頃から参加してくれそうな若者に声をかけたり、各種イベントに行政からも誘ったりして参加しやすい「つなぎ」を作っておくことが大切です。

・松本 幸永

「若い世代の（行政）参加」については、児童・生徒・学生の意見が自分たちの生活を良くする体験ができるようにすることが必要です。

・渡部 敏樹

NPOを始め、各活動団体の協働事業は行われていますが、市民の多くが一つになって取り組む協働事業の立ち上げが必要です。また、さらに大きな協働の意義を持ったリーダーの養成が必要です。

（2）総括

第5期みんなでまちづくり推進会議の協議テーマ「若い世代の（行政）参加」については、2－（5）総括や前項目の5－（1）の委員の感想のとおりである。市が推し進める「市民が主体となったまちづくり」には若い世代の参加が不可欠であり、人口減少が進む中で、今後、より重要性は増してくると考える。本推進会議においても、今回、協議したことを活かして、若い世代を巻き込んで、協働のまちづくりを進めていきたい。

6. 会議開催経過

・平成28年度

第1回（平成28年4月11日）

「若い世代の行政参加について」ワールドカフェ方式による討議
每熊アドバイザー・島根大学生14名参加

第2回（平成28年5月6日）

市民活動推進補助金の審査

第3回（平成28年8月5日）

市民活動推進補助金の審査

第4回（平成28年11月10日）

市民活動推進補助金の審査、「若い世代の行政参加について」フリートーク

・平成29年度

第1回（平成29年5月9日）

市民活動推進補助金の審査、「若い世代の行政参加について」フリートーク

第2回（平成29年8月8日）

市民活動推進補助金の審査、「若い世代の行政参加について」フリートーク

第3回（平成29年10月31日）

市民活動推進補助金の審査、「若い世代の行政参加について」ワールドカフェ方式による討議 每熊アドバイザー参加

第4回（平成30年3月6日）

「若い世代の行政参加について」ワールドカフェ方式による討議 20代～40代の男女23名参加

第5回（平成30年3月19日）

第5期の事業について総括

7. 委員等名簿

・委員

氏名	市民活動団体名等	備考
石橋 文夫	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
植田 建造	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
遠藤 恵子	市民活動センター登録団体連絡協議会	
梶川 恵美子	かもめ会	
門脇 京子	境港中国文化研究会	副会長
門脇 紀文	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
佐古 廣	夕日ヶ丘1丁目自治会	
佐名木 歩実	島根大学法文学部法経学科行政学専攻	
土田 良和	誠道公民館	
徳尾 勝	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松本 幸永	市民活動センター登録団体連絡協議会	会長
渡部 敏樹	自然農法園 さかい夢の浜	

(敬称略、50音順)

・アドバイザー

每熊 浩一	島根大学法文学部准教授
-------	-------------

・事務局

境港市総務部地域振興課企画係